

EISCAT_3D サイエンスワーキンググループ (SWG) 活動報告

(2011 年 04 月 18 日更新 文責 小川泰信)

EISCAT_3D Preparatory Phase project の中の1つである Working Package 3 “Science Planning and User Engagement” における活動についてご報告します。

経過：

2010年10月のPreparatory Phaseの開始と同時に、Working Package 3 (WP3) の活動も開始。

Working Package 3のコンビーナーは Dr. Anita Aikio と Dr. Ian McCrea。

このWP3内にサイエンスワーキンググループ (SWG) を立ち上げ、初期メンバーを選出し、4年間の活動が終わるまでに様々な研究分野を包括するようにメンバーを交代することを想定。

2010年11月にサイエンスワーキングメンバーの選出。

メンバー (7名) は以下の通り、

Dr. Anita Aikio (University of Oulu, Finland, co - convenor)

Dr. Ian McCrea (STFC Rutherford Appleton Lab., UK, co - convenor)

Dr. Yasunobu Ogawa (National Institute of Polar Research, Japan)

Prof. Kjellmar Oksavik (UNIS, Norway)

Prof. Asta Pellinen - Wannberg (IRF Kiruna, Sweden)

Dr. Mark Clilverd (British Antarctic Survey, UK)

Prof. Markus Rapp (IAP Kuhlungsborn, Germany)

このサイエンスワーキンググループによる初めのミーティングを 2011 年 1 月 14 日にフィンランド気象研究所 (FMI) にて開催。Dr. Kirsti Kauristie (chair of the EISCAT Council) や Dr. Olaf Amm、Dr. Pekka Verronen も招待者としてミーティングに参加。

ミーティングでは、それぞれのメンバーが考えている EISCAT_3D への科学的アイデアやレーダーのスペックについて、まとめて発表がありました (私はイオン流出について話しました)。

その他に、新規ユーザーコミュニティの開拓のため、コンタクトリストの作成を行った。

(ただし、集まった名前のリストは、SWG メンバーに公開されていません。EISCAT 本部の Esaさんは持っている様子。)

このミーティング後に、電子メールベースで EISCAT_3D レーダーのスペックに関する表を作成開始。2011 年 2 月 21 日のバージョンをメールに添付してお送りします（日本の EISCAT_3D ホームページ <http://polaris.nipr.ac.jp/~eiscat/eiscat3d/introduction.html> に 3 月 7 日に掲載しています）。この表が SOC 会議でも公開され、現在コメントを受け付けています。

この作業と平行して EISCAT_3D science case の初版（Ian McCrea さんと Mike Kosch さん作成・編集）の改訂を行います。

今後：

2011年5月17日に2回目のSWGミーティングをウプサラ・スウェーデンで開催予定。その翌日以降（5月18-20日）に同会場で第3回EISCAT_3Dユーザー会議が行われます。初日の5月18日には大気に焦点を当てたセッションで、SWGメンバーの中の大気研究者（Dr. Mark ClilverdやProf. Markus Rapp）が中心になって議論する予定です。

その後の 2011 年秋のミーティングでは、新しいメンバー（宇宙天気やモデリングコミュニティを含む）で SWG を再構成し、ミーティングを行う予定と聞いています。

報告は以上です。